

# ハーモニー

ながら、自分たちのまちをもっと住みよく愛着の持て  
みが区内のあちらこちらで行われています。  
づくり活動を紹介しましょう。



## まちへの気持ち をリラの花に託して

愛着と誇りを持てるまちにしたい。そんな願いを込めて新琴似六番通街づくりクラブ（会長・大場隆明さん）では、自分たちが住む地域を、日本で最も多くライラック（リラ）が咲く美しいまちにしようと取り組んできました。市や町内会と協力して、家の庭先や屯田防風林沿いに、



咲き終わったライラックの花がらを刈り取る「リラの木育て隊」の皆さん。木全体に栄養を行き渡らせるための大切な作業です

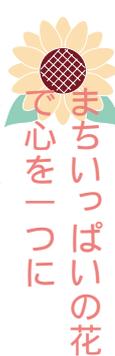
平成九年から十一年までの三年間で約千八百株のライラックの木を植えました。現在の地域には、それ以前に植えられていたものを合わせる約三千株ものライラックの木があります。この木の管理を行政に任せきりにするのはなく、自分たちの手で。そう考えたクラブのメンバーたちは、昨年、防風林沿いのライラックの木、約三百本を世話するボラ

枝の払い方を確認し合う秋山さん（中央）と隊員たち



ンティアを募集しました。名付けて「リラの木育て隊」。「隊員となる資格はリラの木に愛情を注ぐこと。リラの木を褒めたり、ほかの地域の人にPRしたりすることでいいんです」と笑顔で話すのは、隊の事務局を務める秋山忠継さんです。隊員たちは、それぞれ自分の都合の良い時間に、枝の剪定や木の周りの草刈りなどを行っています。秋山さんは「みんなが本当に楽しみながら、自主的に参加してくれているのがいいですよ」と話します。

今年、ライラックは、昨年と比べて花の付きが悪い状態だったそうです。六月九日、防風林の中で行われた「リラの木育て隊の集い」では、その原因について話し合いました。「日当たりが悪いのでは」「枝を切り過ぎてしまったのではないか」と、意見を出し合いました。この集いは、花で街並みを飾る活動を通じて、地域の人たちの交流を活発にしようと、平成十年に設立されました。会長代行の菅谷隆行さんは、その結成の理由を次のように話します。「花づくりは、お年寄りでも参加できるものだと思っただけです。何より、きれいな花を見て怒る人はいませんか。花がきれいに咲いていると気持ちいいものですよ」。



合っ隊員たちからは、ライラックに対する深い愛情が感じられます。この隊の活動は始まったばかりです。来年はいっぱい咲くといいなあ。こつこつと話す皆さんの思いが、きっとライラックの花の色のようなさわやかなまちをつくっていくことでしょう。